

1

ホーム中央ブロック実証実験の実施に向けた意見交換会 議事要旨

日時：令和7年1月7日（火）15：00～16：00

場所：中央合同庁舎第3号館6階鉄道局大会議室（※WEB会議併用）

○中央誘導ブロックに対する考え方

要望書等の要点

（東京都盲人福祉協会）

・「プラットホーム中央に誘導ブロックを敷設するよりも、ホームドアや稼働柵の敷設を何

よりも最優先に考えて欲しい」

・「実証実験の必要性もない」

（日本視覚障害者団体連合）

・「ホームドアないし転落防止柵の設置が最優先」

・「ホーム中央に視覚障害者誘導用ブロックを設置することが、ホームドアないし転落防

止柵の設置を遅らせる結果となることは、言語道断」

（弱視者ネットワークおよび日本網膜色素変性症協会）

・「長軸方向の安全な歩行経路に関する実証実験を速やかに実施すること」

・「実証実験で有効と考察できた方策については、ガイドラインに反映し、全国の鉄道事

業者に周知すること」

以下議論

（日本視覚障害者団体連合）

・実証実験を行い、データを取ることは必要である。

・ホームドアや可動柵以外のハード設備をしたとしても視覚障害者自身が何らかの勘違い

をする可能性はある。

（日本弱視者ネットワーク）

・中央誘導ブロックの敷設には莫大な費用がかかるわけではない。業者によると島式ホー

ムの左右に内方線を敷設するよりも安価ということである。仮に中央ブロックの敷設によ

り、ホームドアの設置ペースが落ちるのであれば、これまで進めてきた内方線の敷設によ

り既にホームドアの設置ペースが落ちてきたはずである。

ところが、実際はホームドアの設置ペースは落ちるところか上がっている。よって、中央

ブロックの敷設もホームドアの設置ペースを落とすことなく進められると考えられる。

バリアフリー設備費を運賃に上乗せできる仕組みもできており、ホームドアも点字ブロッ

クも、財源を分けて充実させていくのが妥当である。

・歩行訓練は重要だが、今は長軸方向を歩く際に誘導ブロックがないため、訓練を行うに

して

2

も、視覚障害者が手掛かりにできるものがない。国交省のガイドラインにも階段から最寄

りの車両ドアまでの誘導ブロックの敷設しか書かれていない。現に転落事故の63.5%が、

視覚障害者が長軸方向に移動している時に起きている。またホーム中央に誘導ブロックが

あればそこを安全に歩くことができ、ホーム中央で人とぶつかっても転落することはな

い。

（東京都盲人福祉協会）

・点字ブロックの敷設率が90数%になるまでには長い年数を要している。中央誘導ブロッ

- ・ホームから転落する人の多くは間違いを認識しないまま転落している。中央誘導ブロックに辿り着けるか、縁端のブロックと錯誤が起きないかという点が心配。
 - ・中央誘導ブロックがあると思っていたら無くて、ホームから転落するということも起こり得る。
 - ・歩行訓練をしている人は誘導ブロックがあればある程度歩けるはずであり、それでも転落しているケースがあるので、実証実験をしてホームからの転落を防げるとは言えない。
- (日本弱視者ネットワーク)
- ・日視連の意見書にある「検証が必要」というのは、実証実験は必要ということか。
 - ・過去の調査によると、ホームからの転落は慣れた駅での転落が全体の72.9%を占める。初めての駅を盲人、または強度の弱視者が1人で歩くことはそれほど多くないと思う。

○今後の進め方

(東京都盲人福祉協会)

- ・新技術検討会に参加しているのが大手鉄道事業者なので、それ以外の中小鉄道事業者の意見も聞きたい。

3

(日本歩行訓練士会)

- ・第9回検討会では、鉄道事業者6社中5社がホームドア整備に影響ありと回答しているので、ホームドアへの影響については再度調査いただきたい。
- ・長軸方向はできるだけ距離を短くということで訓練しているが、どうすれば距離を短くできるかをいかに視覚障害者に伝えていくことが重要。一方で、誤認はどれだけ訓練しても起こり得るので、人的支援と新技術を結びつけて対応していくことが重要。

(日本弱視者ネットワーク)

- ・先日の検討会で、大阪メトロとJR西日本の新技術に関する取り組みの報告があったが、これらの取り組みにより、ホームドアの設置ペースが落ちたということがあったかを確認していただきたい。

(事務局)

- ・議論を今後進める上で、ホーム中央ブロックの敷設費用等、事業者の実態を聞くべき論点が出ている。次回の検討会では、大手だけでなく中小も含めて事業者に対するヒアリングが出来るよう準備を進めたいと考えるがよい。

(委員)

- ・異議なし

以上